

令和 4 年度

総合戦略事業評価報告書

〔 評価対象：令和 3 年度地方創生推進交付金事業 〕

令和 4 年 1 1 月

にかほ市ふるさと創造有識者会議

はじめに

1. ふるさと創造有識者会議について

本市では、平成27年11月に「にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

まち・ひと・しごと創生を効果的・効率的に推進していくためには、住民、NPO、関係団体や民間事業者等の参加・協力が重要であることから、総合戦略策定にあたっては、住民をはじめ、産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産学官金労言）等で構成する推進組織でその方向性や具体案について審議・検討し、広く関係者の意見が反映されるようにすることが重要とされた。

また、その効果検証に際しても、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、このような組織などを活用して、外部有識者の参画を得ることが重要とされていることから、産学官金労言の各分野における有識者及び住民代表からなる「にかほ市ふるさと創造有識者会議」を設置した。

2. 令和4年度にかほ市ふるさと創造有識者会議構成

役 職	氏 名	所 属	分野
議 長	小笠原 正	秋田県立大学 名誉教授	学
副議長	新 田 修	にかほ市工業振興会 会長	産
議 員	佐 藤 仁	にかほ市商工会 青年部長	産
〃	伊 藤 武 久	にかほ市観光協会	産
〃	土 井 剛	秋田しんせい農協 西部営農センター長	産
〃	佐 藤 正	由利地域振興局 地域企画課長	官
〃	石 井 智 明	北都銀行 象潟支店長	金

ふるさと創造有識者会議の審査概要と総評

令和4年度のにかほ市ふるさと創造有識者会議（事業評価）は、令和4年11月1日、8日の2日間で開かれ、令和3年度地方創生推進交付金事業として実施された5事業を評価したので、その審査概要を報告するとともに総評を述べる。

総合戦略の推進にあたってはPDCAサイクルの運用が求められることから、評価は事業の目標（KPI：重要業績評価指標）の達成に効果があったかどうかについて、A（効果がある）、B（やや効果がある）、C（あまり効果がない）、D（効果がない）の4段階で行った。

評価を行ったのは地方創生推進交付金事業である【子ども・子育てのまちを核としたシティプロモーション】、【地域を支える「関係人口」創出プロジェクト】、【にかほ発！ビーチから未来を担う「にかほベンチャー」創出・育成事業】、【外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業】、【にかほワーケーションフィールド構築事業】の5事業であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、残念ながら事業の縮小を余儀なくされたものもあり、担当の方々は大変苦勞されたと思う。今後も同様の影響が考えられるので事業の執行にあたっては細心の注意を払ってほしい。

評価結果は5事業のうちA評価が4事業、B評価が1事業であった。A評価でも今後の展開への期待を込めたうえでのものや改善点を指摘されたものもあり、評価に満足することなく今後も事業を進めてほしい。

7名の議員からは、それぞれの事業に対して多くの意見や要望が出されたので若干紹介したい。①「子ども・子育てのまちを核としたシティプロモーション」に関しては、今の数値評価のKPIが正しいのかどうかという疑問と、もっとプレスリリースを増やすべきではという意見が出た。②「地域を支える「関係人口」創出プロジェクト」に関しては、令和4年度以降も長期にわたって実施してほしいという意見が出た。③「にかほ発！ビーチから未来を担う「にかほベンチャー」創出・育成事業」に関しては、ベンチャーを多く輩出したいという考えはよく分かるが、「ビーチから…」という事業名が分かりにくいという意見が出た。④「外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業」に関しては、メンターやチューターのような人が

いる方が良い、など技能実習生制度そのものに限界があるなどの意見が出た。⑤「にかほワーケーションフィールド構築事業」に関しては、KPIが企業数になっているが、ワーケーションをした個人をカウントした方が良い、という意見が出た。

5事業全般に関してであるが、いずれの事業もにかほ市にとって重要な事業であるため、交付金を受け取れなくなった場合でも続けていくような努力をしてほしいという意見が多く出た。いずれの指摘も事業効果が向上し、にかほ市の地方創生に資するものとなるための意見なので真摯に受け止めてほしい。そして、事業評価においては市職員の意識の高さ、事業を良いものにしようという意識が感じられた。

今回の評価も事業評価シートを用い、あらかじめ担当課が事業評価を行ったうえで有識者会議に諮られた。それぞれの事業の捉え方や事業の対象、評価項目にある事業の必要性について、担当課においては今まで以上に評価結果の公表を意識した的確な記載に努められるようお願いしたい。また、KPIについては、目標値をクリアしたかどうかだけではなく、翌年度以降の目標値の設定にフィードバックするなど、より効果的な運用に努めてほしい。また、その事業にふさわしいKPIになっているかについてもよく考えていただきたい。

総合戦略事業の評価は、事業をより良いものにするという観点でなされている。よって、今回、各議員から出された意見を十分検討し、事業の改善に役立てるのはもちろん、根本的な見直しや効果が見込めないものについては廃止までを含めて見直しを行い、にかほ市の地方創生に資する事業にしていくことを期待する。

行政のみならず、外部の力も借りながら、にかほ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に取り組み、少しでも人口減少に歯止めがかかるようにまい進してほしい。

令和4年11月29日

にかほ市ふるさと創造有識者会議

議 長	小笠原	正
副議長	新 田	修
議 員	佐 藤	仁
〃	伊 藤	武 久
〃	土 井	剛
〃	佐 藤	正
〃	石 井	智 明

○会議の開催経過

会 議	日時・場所	内容
第1回会議	令和4年11月1日（火） にかほ市労働者研修センターエニワン	・委嘱状交付 ・議長及び副議長の指名 ・有識者会議の設置について ・会議の進め方について ・事業評価について ・評価作業（3事業） 子育て支援課、総合政策課
第2回会議	令和4年11月8日（火） にかほ市労働者研修センターエニワン	・評価作業（2事業） 商工政策課

○評価対象とした事業

別表「令和3年度地方創生推進交付金事業」のとおり

○評価の区分

評価は、次に示す4区分によるものとし、意見や提言等を付すものとした。

- 評価A K P I の達成に効果がある
- 評価B K P I の達成にやや効果がある
- 評価C K P I の達成にあまり効果がない
- 評価D K P I の達成に効果がない

○評価の手順

- 手順1 事業担当課による事業概要等の説明 15分程度
 - ↓
 - 手順2 質疑応答 15分程度
 - ↓
 - 手順3 各議員の評価発表
 - ↓
 - 手順4 評価のまとめ（総合評価）
- } 10分程度

令和 3 年度地方創生推進交付金事業

○事業計画期間 令和 2 年度～令和 4 年度（3 カ年）
 ※番号 2 は令和 3 年度～令和 5 年度（3 カ年）

番号	総合戦略における分類			事業名	課・班名
	基本目標	大分類	中分類		
1	1 次世代を担う産業振興	(1) 稼ぐ力のあ る産業振興	②多様な企業立 地の促進と魅力 ある雇用環境の 創出	外国人材にとって「働きやすい まち」、「暮らしやすいまち」実 現に向けた満足度向上事業	商工政策課 商工振興班
2				にかほワーケーションフィー ルド構築事業	商工政策課 商工振興班
3			③起業・創業・事 業承継に対する 支援	にかほ発！ビーチから未来を 担う「にかほベンチャー」創出・ 育成事業	総合政策課 企画調整班
4	2 人を呼び込 むまちづくり	(1) 新たな人の 流れづくり	①関係人口の創 出と拡大	地域を支える「関係人口」創出 プロジェクト	総合政策課 企画調整班
5			②シティプロモ ーションの推進	子ども・子育てのまちを核とし たシティプロモーション	子育て支援課 子育て支援班

（基本目標の項目順に記載）

《令和4年11月1日（火）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
1	子育て支援課	子ども・子育てのまちを核とした シティプロモーション	委託事業

事業の概要	事業内容	「にかほ・子ども伴奏（伴走）プロジェクト」に掲げる「子ども・子育てに寄り添うまち」として、にかほ市を首都圏に向けて発信することにより、関係人口、にかほファンとの継続的な関係構築を図り首都圏から地方への人口流動を推進する。
	事業の対象	にかほファンのもととなる首都圏に住む子育て世代。また、市民、出身者のみならず、首都圏で暮らす結婚・出産など「暮らしの転換期」にあたる世代。
	活動内容	「子育てしやすいまち」を発信するポータルサイトを構築し、マスメディアやWeb プロモーションによる情報発信を行う。交流事業や教育留学、田舎体験等のコンテンツの創出により、関係人口の拡大を図り、感心層としてのにかほファンへ継続的な情報発信の仕組みを構築する。
	目的・成果	感心層との相互コミュニケーションを構築し、情報リーチ数の拡大を図り、「子ども・子育てに寄り添うまち」としてのにかほ市の知名度拡大を目指す。また、来市やイベント体験者、市内在住者、地域の育成団体、企業等の中からサポーターとして自ら広報活動の一役を担うアンバサダーを育成し、シティプロモーションの拡大と継続した関係人口の創出を図る。

評価	A	・ 子育て移住者に対するフォローは大事だが、地元への周知も必要。なにより、にかほ市民がにかほ市を好きになることが大切。 ・ 市民がこの事業をどのくらい理解しているかがひとつの懸念材料である。SNSなどは活用実績があるようだが、市民とタイアップした情報発信を充実させることでより良い体制を構築できる。 ・ アンバサダーは順調に増えているようだが、ポータルサイトの閲覧数など実績値に対して目標値が低すぎる。また、せっかく生まれたアンバサダーは交付金事業の終了後もつながりを持って継続的に進めてもらいたい。 ・ 起爆剤としてYoutubeを使うなど、よい種を見つけることが将来への展開として必要となってくる。 ・ 職員従事数が両テーマに、1.5人と1.5人であわせて3人は多いので見直しが必要と思われる。			
		A : 5人	B : 2人	C : 0人	D : 0人

- ・ 「ニカッ！！とにかほ市フェスティバル」のZoom参加申し込みは１３５人、Youtubeライブの再生回数は２４９回、Facebookの閲覧は９９回の実績がある。
- ・ KPIは事業を行ったという数字だけでなく、参加者の声などを組み入れて説明すると評価しやすい。次回からそのような資料を準備してもらいたい。
- ・ 秋田県の人口が９３万人を下回り、加速度的に人口減少が進むなかで、にかほ市の人口も２０４５年には１万２千人に減少する見込みである。にかほ市は製造業が多いなかで、それでも働き手がなく人口減少が進んでいる状況で、子育て世帯をターゲットにしている事業は評価できる。
- ・ プレスリリースは県内報道機関には当然投げ込みを行っているが、有料のPRタイムスを利用し、そこから２０件、３０件に展開する仕組みを活用している。
- ・ 移住について商工政策課で扱っているため、ひとり親に絞った形ではなく移住全般で施策を展開している。「子ども・子育てのまちを核としたシティプロモーション」では、ひとつ尖った取り組みとしての的を絞って移住体験ツアーなどを行っており、これは市のひとり親を受け入れたいという施策を打ち出しているものである。
- ・ 移住に関しては、商工政策課で移住コーディネーターや移住リエゾンがチームを組んで対応している。

《令和4年11月1日（火）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
2	総合政策課	地域を支える「関係人口」創出プロジェクト	委託事業

事業の概要	事業内容	「にかほのほかに（旧上郷小学校）」を拠点として、リノベーション作業やラジオ発信、地域住民との連携を図りながら、魅力発信拠点へと成長していくための基盤を構築し関係人口を創出する。
	事業の対象	にかほ市の地域課題や地域振興に対して応援してくれる市内外で活動する方々。
	活動内容	・市内外から講師を招いた「にかほのほかに教室」と「にかほのなかに教室」、またDITを提唱するTEAMクラブトンによるリノベーションワークショップの開催。 ・ビジネスコンテンツ制作と特産品いちじくを使った商品開発。 ・配信サイトやSNSを活用した情報発信と各種メディア連携。
	目的・成果	コロナ禍による活動制限はあったものの、にかほのほかにを魅力発信拠点として参加してくれた市内外の方々による知恵やノウハウの提供などもあり、さらなる関係人口の創出を目指すことができた。

評価	B	・ 3年計画の2年目ということでさまざまな行事を行っているが、発展途上で今後の結果に期待する。 ・ イベント等を行っているようだが、それが市民に伝わっていない。「上郷小学校はどうなっている？」「サウナは入れるの？」など聞かれることが多い。大きなお金をかけて大きな目標に向かってるのであれば市民への周知は必要不可欠である。 ・ 観光地を案内する際、元滝伏流水や鳥海ブルーラインを主に紹介しているが、もうひとつあの地域に寄れる拠点として作り上げてほしい。 ・ KPIの実績値が市外よりも市内の方が多いようなので、目標値に届いていない。地域の方々も心配しているようなので、逆に意見を聞くなどの働きかけを行ってほしい。 ・ 利活用に関して事業運営者を公募で決めるとか、応募者がいなければ市が運営するとか曖昧な部分があるので、そこを明確にして令和5年度から成功させるイメージで取り組んでもほしい。			
		A : 3人	B : 4人	C : 0人	D : 0人

- ・ KPIの関係人口について155人とあるが、TEAMクラブトンのリノベーション事業など市外よりも市内からの参加者が多い。また、Zoomなど顔出しで参加している人はカウントしているようだが、関係人口の定義が曖昧に感じられるのでしっかり定義してもらいたい。
- ・ 地元の方から「何をしているのか分からない」との声を多く聞く。高速を下りたところに看板を設置しているのに、実際に現地に行っても運営はしていない。先般、現地の草刈りを行ったが、看板を設置して誘導しているのであればせめて草刈りくらいは行うべきだと思う。
- ・ 運営については、現在、サウンディング型市場調査を行い、「あなただったらどのような事業展開をするか」というのを広く公募している。その結果を基に、年明けから運営事業者の選定に向けて公募を行っていく。
- ・ グラウンドでは年に1回、花火の打ち上げなどを行い利用していて、建物の方でもなにかやれればと思っているが、いつオープンするか分からない状況だった。令和5年4月のオープンに向けて進んでいるようだが、例えばサウナにしても、一般の人は利用できるのか、イベントを行うときだけ入れるのか、運営事業者が判断することかもしれないが市民への発信は必要だと思う。

《令和4年11月1日（火）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
3	総合政策課	にかほ発！ビーチから未来を担う 「にかほベンチャー」創出・育成事業	委託事業

事業の概要	事業内容	にかほ市の新時代を担うベンチャーを生み出し続けるエコシステムを構築し、にかほ市を牽引するベンチャー集積地を目指すため、新たな価値観で地域資源を活用したビジネスにチャレンジできる環境を整備する。さらに、地域に根付いて地域の将来を担うビジネスを展開するベンチャー候補となる人材の発掘から育成まで一貫した支援を行う。
	事業の対象	・起業を考えている人。 ・起業して間もない人。 ・自身が持っているビジネススキルを地方で活かしたいと考えている若者。
	活動内容	・WebサイトやSNSを活用して、インキュベーション施設（わくばにかほ）のPR、オンラインでの相談回答を実施。 ・オンラインと対面の双方で対応したセミナーの開催と記事の配信、アクセラレータープログラムの実施。 ・法人設立手続きや今後の事業計画、資金調達などあらゆる支援の実施。
	目的・成果	自身の持っているビジネスプランをより具体的なビジネスプランに磨き上げるプログラムを実施し、本市を拠点として活動するビジネスを展開する。

評価	A	・市として起業を考えている方々に希望を持たせるという面で、非常に良い事業だと思う。現地の内装は都会風な反面、入口は入りづらい雰囲気があったので、市民の方が気軽に利用できる雰囲気づくりを進めてもらいたい。 ・これからの時代に乗っていく事業であり評価したい。ただ、事業名が複雑すぎて、「ビーチから」とあるので海から何かを作り上げていくものと勘違いしてしまうのではないかな。 ・ビジネスプランコンテストは非常に有望な参加者が多かったが、販路などが乏しいように感じたので、第一次産業に着目しながら進めていけば市の活性化にもつながる。 ・成功事例を作り上げて引っ張っていく人材が重要である。 ・来るのを待つだけでなく、こちらから発信してひとりでどうしようと悩んでいる人に手を差し伸べることも必要だと思う。			
		A : 7人	B : 0人	C : 0人	D : 0人

有識者会議での参考・意見等	・ 交付金事業としては、令和２年度に１階部分を改修している。残りの２、３階に関しては、令和５年度以降に交付金事業をもう１サイクル行って改修を予定している。 ・ KPIのベンチャー創業起業・輩出件数、令和３年度の実績７件の内訳は、法人が１件、個人事業主が６件、出身地の属性としては、県外が５件、県内が２件である。 ・ 令和４年度の起業件数については現時点では報告はないが、ビジネスプランコンテストにおいても、若手和牛農家や前川ネギなど、年々有力な参加者が増えている。 ・ 事業目的に「地域資源を活用した」とあるが、Web関係の起業には関係しないと思われるので見直した方がよい。
----------------------	--

《令和4年11月8日（火）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
4	商工政策課	外国人材にとって「働きやすいまち」、「暮らしやすいまち」実現に向けた満足度向上事業	委託事業

事業の概要	事業内容	技能実習生と地域住民との交流事業を行いながら日本語習得を支援し、日本語能力検定試験N3合格を目指す。また、技能実習生にとってにかほ市での暮らしに有益な情報を共有するための生活情報ガイドブックを作成する。
	事業の対象	外国人技能実習生と地域住民等。
	活動内容	外国人専門人材を市に配置し日本語教室を開催する。また、市の自然や施設の紹介、食文化の体験等を通じた交流事業を開催する。
	目的・成果	日本語能力試験N3合格を目指しながら、技能実習生が孤独に陥ることなく、安心して暮らし働き続けられることを目指す。

評価	A	- ベトナムからの実習生などは、借金をして送り出し機関で1年とか半年とか勉強してくる。日本に来てからは受け入れ機関となるわけだが、賃金や保険など地元の人を使うよりも割高な場合もある。そこを企業と市がうまく絡みながら進めてもらい。 - にかほ市でも人手不足は深刻な状況なわけで、こういう事業をこれからもどんどん進めてもらいたい。最長5年ということで、メリット、デメリット両方あるかもしれないが、市側の窓口を広くしてこれからも継続してもらいたい。 - フットサルなどさまざまな分野で交流できるため、市民のボランティアを含めて参加したい人は多いはずである。まずは市民も知ることから始めて、学生など同じ世代の人とも交流を深めることができると思う。 - さまざまな事情がありながらも需要を満たしているようなので、今後も受け皿として継続してもらいたい。 - 日本語習得はある程度の語学レベルに達することで、母国に帰ってからも就職の幅を広げることにつながると思う。			
		A : 7人	B : 0人	C : 0人	D : 0人

- ・ 外国人技能実習生制度は、東南アジアに絞ったものではないが中心にはなっている。にかほ市ではたまたまベトナム人が多いが、ほかにもインドネシア、タイ、ミャンマー、カンボジアからも日本に来ている。
- ・ 海外から知らない土地に来ているということで、メンタル的に心細い思いをしている方もいると思う。そこをチューターやメンターの方などが、生活面のアドバイスをするなどフォローも必要だと思う。
- ・ 技能実習生は家族を呼べず単独で来なければいけないが、特定技能であれば目的が決まっていて家族を呼ぶことができる。国の方でも一本化に向けて検討している。
- ・ KPIの離職者数ゼロとあるが、技能実習生は離職すると帰らなければならない。県内では数名の離職者がいる模様。
- ・ 外国人技能実習生を受け入れた企業に対しての補助制度があり、受け入れた1人に対して10万円を補助している。令和3年度はコロナ禍で受け入れできなかったが、令和4年度は現時点で18件の申請がある。
- ・ にかほ市でも3年を超えて、4年目、5年目に突入している方がいる。日本語もかなり上達して日常会話も問題ないレベルになっていて、職場の技能も上達している。ただ、5年目を超えると離職することになり、せっかく一人前になったのに帰らなければならない、そこが企業の悩みの種でもある。

《令和4年11月8日（火）有識者会議》

No.	事業担当課名	事業名	事業種別
5	商工政策課	にかほワーケーションフィールド 事業	委託事業

事業の概要	事業内容	首都圏等企業や感度の高い人材を対象としたワーケーションにより、市内への新たな産業分野の企業誘致や既存産業への底上げを図りながら、効果的にワーケーションを推進する団体を設置し、ビジネスコミュニケーションの標準環境を構築する。
	事業の対象	首都圏等企業や柔軟な働き方に敏感な人材等。
	活動内容	ワーケーションをきっかけとした新たなビジネスコミュニティ形成や、そのマッチング支援をワンストップで推進することで、持続可能なにかほ型ワーケーションの確立を実現する。
	目的・成果	企業による市内サテライトオフィス開設。また、本市におけるワーケーション実施企業を増やす。

評価	A	・ ワーケーションとバケーションがあるわけだが、ワークに偏っている感じがするので、観光の方からも力を貸してもらって、例えば観光協会とタイアップすることも必要ではないか。 ・ お盆、正月に帰省した際のコワーキングスペースとしても利用できることを期待しているので積極的に進めてもらいたい。 ・ 面白いことに着眼し素早く動いているチャレンジ精神が素晴らしいと思う。Uターンして戻って来ても仕事がない、そういう人たちがこの事業を通じて会社の方に問いかけ、さらに広がっていくと思うので頑張ってもらいたい。 ・ ワーケーションも若い世代から始まれば広がりも早いと思う。そのための環境をきちんと整えることが大事なので、若い世代を引き寄せる起爆剤になることを期待している。 ・ なかなか実態を理解するのが難しい感じはあるが、それなりに実績も上がってきているようなので、全県の先進事例として継続してもらいたい。			
		A : 6人	B : 1人	C : 0人	D : 0人

- ・ ワーケーションフィールド構築事業は、交付金が終了後に自立自走してもらうための団体あるいは会社の構築に向けて動いている状況である。現実的には一般社団法人ロンドが膨らみを見せていて、県内外のプレーヤーがどんどん育っている。
- ・ KPIが全て企業数になっている。個人がワーケーションに来てから企業が来るという流れだと思うが、この設定では企業にアプローチして社員を派遣してください、という意味合いに捉えてしまう。個人が遊びながらというのがワーケーションということであったが整合性がとれていないのではないかな。
- ・ かなり長いスパンの事業で、今はきっかけ作りの期間だと思う。KPIと実績が難しく感じられ、最終的には人口流出を止めるための企業誘致だとすると、そこを有効に使っていく必要がある。
- ・ ワーケーションを行うにあたってのデメリット面はどうか。慣れない土地でやっていくための企業側の制度が追い付いていないなど、ほかにもコワーキングスペースでのセキュリティ面で対策も重要になってくると思う。